

(3) WG 5：工事中の安全衛生

部 会 長：M. Halwachs（オーストリア）

副部会長：I. Turner（ドイツ）

担当理事：S. Zlantic（米国）

本 WG は、トンネルの安全衛生について多角的な検討を行う。特に、WG5 として ITA 報告書作成と CEN（欧州標準化委員会）、BTS（英国トンネル協会）等との連携を重視した活動を行っている。今回は 2 日間の WG が行われ現地対面とオンラインで 18 名が参加し、日本からは岩野（鹿島建設）が対面、吉川（労働安全衛生総合研究所）がオンラインで参加した。開始冒頭、部会長の改選があり 1 期目の任期が終えた M. Halwachs 氏（オーストリア）が 2 期目も選出された。WG の名称変更は「Health and Safety at Works」から、「Health and Safety」となり ITA の手続きと承認が報告された。会合では具体的に以下の事項にて議論した。

- ・継続して検討中の ITA 報告書 14「建設中のトンネルにおける避難室の設置に関するガイドライン」の完成が報告された。同報告書には在来工法における避難室の使用、避難室の断熱等が追記された。
- ・Francois Velge 氏より DPM（ディーゼル粒子状物質）とそのリアルタイムモニタリングの必要性に関する話題提供があり、定期サンプリングでは地下環境での瞬時の基準値超過を十分把握できない点を指摘された。
- ・Mike Rispin 氏よりトンネル工事における安全関連技術の紹介があった。特にトンネル内の Connectivity（通信接続性）が重要として、光ファイバや有線／無線を組み合わせたハイブリッドシステム、またその冗長化などの紹介があった。
- ・継続して検討中の EN 規格に関する事項の報告では EN 16191「トンネル掘削機-安全要求事項」については最終段階、EN 12110「空気モード暴露及び酸素減圧用エアロック」については Part2 が完了、EN 1889-2「鉱山とトンネルで地下使用するバッテリーロコ」は新たな規格作成作業が進行中とそれぞれ報告された。
- ・Emergency Management の 1 つとして電動車両やバッテリー火災リスクについて議論された。これらの危険性をメンバー内で共有したのち、消防の対応や避難など各国で明確な規格やシステムが不足しており継続した議論が必要であることを確認した。
- ・最後に Emergency Management として各国のガイドライン等の情報提供がなされ、各国、地域で考え方が異なり、緊急対応機関や運用の標準化はやや困難であることが認識され、将来の文書化に向け議論を継続することとした。

（文責：吉川直孝・労働安全衛生総合研究所，岩野圭太・鹿島建設）

WG5 の活動状況はこちらから

[Working Group 5: Health & Safety](#)